

委員会視察成果報告書

7年 12月 17日

犬山市議会議長

議員名 鈴木伸太郎

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	7年 12月 ¹⁷ / ₁₆ 日(水)
(2) 視 察 地	犬山市立図書館
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別紙



民生文教委員会 現地調査報告

令和7年12月¹⁷~~16~~日 犬山市立図書館

担当部課長、図書館館長より、犬山市立図書館の説明と案内をしていただいた。近隣都市で、駅前に新図書館が開館し賑わいを見せている中で、犬山は老朽化、マンネリ化、時代遅れ感もある図書館と映る。今年度の民生文教委員会も、図書館がテーマになったのはそのあたり。それを踏まえての現地調査。

- ・個人的には、犬山の図書館は、現状の継続で良いと考える。蔵書の古さは否めないが、多額の予算が発生することを考えると現状維持か。ただし、白書、年鑑等の定期刊行物は更新に敏感になってもらいたい。
- ・最近の新規図書館は、館内にカフェ他のにぎわい創出施設が整備される傾向が強いが、個人的には不要と考える。
- ・図書館を「にぎわいづくりの場」ととらえるか、「知の拠点」ととらえるかで考えが判れるところだが、私は「知の拠点」としての整備を望む。駅前の居場所ににぎわいづくりの公共スペースならば、図書館でなくてもよい。東京都北区の十条駅前再開発ビル内にオープンした「J&L」という施設は、北区がにぎわいづくりの場として整備したパブリックスペース。図書館的な開架式書棚で並び、誰でも自由に小説や雑誌を手に取り閲覧可能だが、そこはコミュニティスペースとしての機能が第一で、図書館的機能、クラフト工房的機能はサブ的な要素だった。
- ・図書館は、そもそも公共施設の中では、学校等を除けばかなり集客効果のある施設、わざわざ、別機能を取り込む必要は感じない。大規模な複合施設の中に図書館が入るのであれば話は別。
- ・現在の犬山市立図書館^お抱える課題、個人的には楽田の分館をいかに活性化するか、だと思う。
- ・図書館は、資料を保存し、提供することで市民の知的活動を支える場。賑わいを作ること自体が目的になってしまっては本末転倒。
- ・議会^おの多数が描く、まちづくりの道具としての図書館像と、「知の拠点」としての図書館像との間にずれが生じていないか、議会としても、行政に対し、犬山市立図書館の方向性をしっかり見定めて提言していく責任がある。
- ・今年度、高梁市立図書館を訪問したが、事前学習が不足していると、犬山市立図書館を訪問した議員の感想から感じ取った。せっかく旅費を使って調査出張するのであれば、もっと自分の街の状況を事前学習してしかるべき。

以上